

## 高血圧治療は新型コロナ感染に保護的に働く

新型コロナウイルスはヒトの細胞に侵入するときにアンギオテンシン変換酵素Ⅱ（以下、ACE2）受容体を利用することが分かっており、肺の保護に重要な役目を果たしている。ACE 阻害薬は主要な降圧薬であり、これにより ACE2 が増加するため、パンデミック当初は新型コロナウイルス感染症の発症や重症化リスクが高まることが懸念されていたが、現在は否定されている。本研究では、高血圧が新型コロナ感染症への感染に及ぼす影響について検討した。

日本の患者調査と新型コロナウイルス陽性者数のデータを用い、都道府県ごとの慢性疾患をもつ患者数と陽性者数の比を算出し、両者の間に有意な相関があるかを調べた。その結果、循環器疾患のなかでも高血圧の人口当たりの患者数が多いほど、新型コロナウイルス陽性者率が低いという逆相関の関係がみられた（ $P<0.001$ ）。年齢層別の解析においては、35～44 歳、45～54 歳、55～64 歳、75～84 歳、および 85 歳以上年齢層で有意な逆相関がみられた。

今回の結果から、高血圧治療が新型コロナウイルスの感染リスクに保護的な役割を果たしていることが示唆された。

出典：International Journal of Infectious Diseases. 2021 Jul; 108: 517-521.